

## 令和2年度第2回 京都市次代の左京まちづくり会議 摘録

【日時】 令和2年12月17日（木） 午前10時から正午まで

【場所】 左京区総合庁舎1階 大会議室A

【出席者】 ○委員 13名《欠席者5名》

○左京区役所 14名

【傍聴者】 3名

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 内容

##### （1）第3期左京区基本計画（素案）について

- ・ 事務局から説明（資料1，1-1，1-2）
- ・ 意見交換

##### ■外国籍の方への対応について

＜委員＞ 地域コミュニティでごみ出しルールなどをどう伝えていくのか。多言語で表記をすれば良いのか。ヨーロッパでは、国や自治体をあげてもっと丁寧に対応している。左京区は11行政区の中でも一番進んでいるべきところであり、常にブラッシュアップすべきだ。10年前と同じでは駄目だ。区民や事業者に近いところで、どういう対応をするのかが重要だ。

＜委員＞ 多言語化は最初の一步だ。職場、学校、地域など生活レベルでの共生を進めることが次のステップだ。迎え入れる住民側も変化し、姿勢を示すことを左京区の計画に明示しても良い。

##### ■ごみの減量について

＜委員＞ お土産の過剰包装はごみが増える要因になっており、考える必要がある。

＜委員＞ ごみの減量については、レジ袋の無料配布廃止で一步進んだ。お土産は過剰包装だが、今では贈り物の位置づけに変わっている。また、通販やデリバリーで新たな過剰包装も生まれている。

＜委員＞ お土産の過剰包装については、異物混入のリスクから法律で定められており、また消費者からは個包装や日持ちを求められている。

ごみ問題は国を挙げて取り組むべき課題だが、現在は製品への責任はすべて企業に求められているため、対応が難しい。

##### ■情報の伝え方について

＜委員＞ 年末年始にごみの回収日が変わるが、左京ボイス（区民しんぶん）に折り込んで配布したお知らせが、読まれずに捨てられている。

＜委員＞ 真のIT社会の実現については、新聞もテレビも見えない若者に伝える方法を検討しなければならない。

＜委員＞ 若者は新聞もテレビも見ておらず、それぞれが動画サイトで好きなものを選択して見ている。情報が広がる手段としては、SNSや友達からの話で知ることも増えており、紙の情報は見ない。情報を発信するのであれば、SNSなどで柔らかい情報を伝え、その中に左京区の課題を付け足すような内容にする必要もある。

- <委員> 行政改革や銀行でも、窓口業務をどこまで削減できるかが話題になる。次の10年の間に社会の様相も変わり、窓口や電話も使わないサービスが進む。誰一人取り残さないというSDGsの目標を掲げているが、やり方を間違えると、若者に情報が届いていない可能性が高まる。
- <委員> 若い方はネットを使うが高齢者は使えないという話については、コロナ禍で顕著に感じている。高齢者の中にはGoto事業も利用できない方もいる。一方、ネットで全ての生活をしている人もあり、対応する必要がある。共働きで子育て中だが、窓口に行くことはハードルが高く、テレビを見る時間もない。若者や学生だけでなく、共働き世帯もネット以外の情報からは遮断されている現状がある。ネットでも、それ以外でも情報が得られ、自分が欲しい時に情報を探せるほうが良い。
- ごみ出しルールの多言語化や収集日変更の話は、検索すればわかる状況になっているのか。それが第一歩だ。区役所からの発信はコストもかかるが、区のホームページに多言語で情報を載せるところからスタートしてはどうか。
- <区職員> 本市のホームページでは、ごみの出し方については多言語化されているが、年末年始の回収日等の細かい説明までは対応できていない。

## ■北部山間地域について

- <委員> 北部山間地域の現状は非常に厳しいが、有志で一般社団法人花背ブランドイグラボを立ち上げ、地域の山菜を復活させ、地域活性化や定住化につなげようとしている。また、左京区の南北の交流を図り、流動人口を増やすことで将来的な定住につなげたい。
- <委員> 里の駅大原も人気で、交流が少しずつ進んでいる。左京区北部の良さを知っていただきたい。
- <委員> 大原は新規就農者が多く、児童を増やす努力をしている。里の駅大原はコロナ禍の中で繁盛しているが、品数が手薄な状態であり、北部と連携しながら山菜の供給販路を開拓していきたい。
- 左京区の4地域が個性を出し、協力しながら魅力づくりに努力したい。
- <委員> 市原野と静原は再来年に学校統合する。静原の児童がバスで山を越えて通学することになるが、半分都会化された市原野の児童と一緒に生活できるよう、事前に交流を進めている。市原野の児童が静原へ行くと、自然の恵みの中でいきいきと遊び、友だち作りも上手くいく。山林が8割という左京区において、子どもたちや青年層と山林の関わり方は、左京区の大きな課題だ。今の里山は荒れているが、里山や自然があるから私達は生きている。それを保証するシステムの整備について、真剣に考えたい。
- <委員> 現在、山にある木は100年間放置されており、売れるものがない。しかし、危険であり通れないため切っ払ってほしいという要請はあり、頼まれて行っている。伐採後は植林もしなければならないが、伐採や植林には誰もお金を出さない。自然が人を生かしているのだが、環境の大切さとは言っても、その維持管理を行う動きが出てこない。
- <委員> 左京区は古都保存法による歴史的風土特別保存地区を多数持っている行政区で、京都市が山林の管理に税金を使っている。これを特別保存地区ではないところにも使おうという議論は起こっている。自然を守るだけでなく、倒木や土砂崩れなどから人命を守る話も出てきている。

<委員> 移住者については、鹿などが出るため暮らしにくいと苦情を言う方もあり、どう共存していくかも課題だ。

### ■地域振興の推進体制について

<委員> 地域振興のために財団を立ち上げる発想は大事だ。重要なのは推進体制であり、高齢化や予算難の中で、ボランティアベースでは持続する可能性が低い。ソーシャルビジネスやNPO法人などの組織と連携し、仕事を生み出しながら取り組む工夫をしなければならない。学生も多数いるが、まだそういう意味でのマッチングができていない。社会を本気で変えたいと思っている若者にチャンスがあるような推進体制について、記載する余地があるならお願いしたい。

<委員> 重要なお指摘だ。ボランティアベースからソーシャルビジネスに進めることはなかなか難しく、我々も提案する時期に来ている。本当にビジネスになったものは数少ない。ただ、学生の状況も変わってきており、起業できるところまで育てるのかなど、どうすればボランティアベースから脱却できるのかを考えておかなければ、維持できなくなる。

<委員> コロナ禍の生活の中では、各学区が取り組む訪問活動等は難しく、アンケートも行い状況把握に努めている。ボランティアは高齢化し、若い人の力を借りたいがすぐにはできない。そんな中でも、つながりだけは残しておきたいと、皆、工夫しながら高齢者への訪問を行っている。

### ■地域内での経済活動について

<委員> コロナ禍をきっかけに、地域内の店舗などを再認識した。近くで安全なものをつくり消費するのであれば、ゴミも出ず、情報も必ずまわりに伝わる。通販や大手企業の商品も魅力的だが、自分たちが消費するお金がどこに返ってくるのかを考えていただきたい。クラウドファンディングが流行っているが、誰を支援するのか、応援したいのかということに気付くきっかけになったのではないかと。

### ■地域活動の継続について

<委員> コロナ禍でも工夫をしながら活動を継続することが地域の力になるという話に励まされた。地域活動を運営する立場では、活動を見合わせるべきかと思うこともあったが、コロナ禍になってから参加の問い合わせも増え、キャンセル待ちが発生している状態だ。大原の公民館を利用させてもらっているが、館長や地域の方から感謝の言葉をいただいた。コロナ禍で心が折れそうな時もあるが、工夫しながら活動を継続できて良かった。

### ■学校教育と避難所について

<委員> コロナ禍で学校に行けず、部活もできず、塾も閉鎖するなど、様々な問題があったが、来年の3月には進級する。しかし、今年の1年生はほとんど勉強を教えられておらず、2年生になって勉強や運動ができるのか心配している。また、それぞれの避難所の問題について話し合ってきた。感染症拡大以降、重症者が出た場合の収容人数を試算したが、もし小中学校の講堂で重症者が20人出た場合は、その学校は使用できなくなる。試算を繰り返すと、場所も人もなくなり、誰を優先的に避難させるのかという話になってしまう。

## ■総括

＜委員＞ これまでの会議で基本計画の策定を進めてきて、コロナ禍が発生する前に計画の骨格はできあがっていた。コロナ禍以降の会議では、コロナ禍についても議論してきたが、骨格は大きく変える必要はないという結論で今に至っている。コロナ禍はもともとあった問題を顕在化させたと感じる。

改めてオンラインやデジタル化の有用性を実感しているが、一方では対面の価値を再認識させられた。希薄になりがちなコミュニティや人同士のつながり、工夫や知識のシェアなどの重要性も教訓として認識し、山間地域は左京区の大切な資産であることも再認識した。

また、民間だけでなく行政も、対面を前提とするサービスから脱却する必要がある。対面も重要だが、選択肢の多様化が必要だ。基本計画の中では、そういう内容が各分野に散りばめられており、いい計画案ができたのではないか。

### (2) 第3期左京区基本計画（素案）概要版・意見募集冊子案について

- ・ 事務局から説明（資料2）
- ・ 追加意見

＜委員＞ 医療機関の方が一番困られていることは、コロナ禍での誹謗中傷が多いということだった。感謝こそすれ、そのような行為は控えてほしい。

＜委員＞ 世界中でコロナウイルスが猛威を奮った時に、イタリアでは皆で団結し、医療従事者に感謝をする動きが起こった。看護師の子どもが誹謗中傷を受けるようなことはあってはいけないことであり、大変申し訳ないことだ。しっかり感謝を伝えることが大切であり、区民と情報を共有したい。

### 3 その他

＜区職員＞ 今後のスケジュールについては、パブリックコメントを来年3月に実施し、その結果を踏まえ、来年6月頃に次回の次代の左京まちづくり会議を開催したい。また会議日程の調整の連絡をさせていただく。

### 4 閉会